常葉学園だより

常葉学園本部
常葉学園大学・大学院
浜松大学・大学院
富士常葉大学・大学院
常葉学園短期大学
常葉学園高等学校・中学校
常葉学園橘高等学校・中学校
常葉学園菊川高等学校・中学校
常葉学園大学教育学部附属橘小学校
常葉短大附属とこは幼稚園
常葉短大附属たちばな幼稚園
常葉学園医療専門学校
常葉学園静岡リハビリテーション専門学校

第190号

橘小学校運動会(H21.10.18)

地域産業の人材育成と連携した就職担任制支援システム

浜松大学総合研究所所長・保健医療学部教授
中西　毅

文部科学省の平成21年度「大学教育・学生支援推進事業」学生支援推進プログラムへの取組として、浜松大学は「地域産業の人材育成と連携した就職担任制支援システム」を提出し、7月に採択通知を受けました。

夏休みはこの取組に給付される補助金のための「調書」作りに追われましたが、就職支援センター・会計課・総合研究所の連係プレーで8月24日に補助金の交付内定を無事受けることができました。9月から執行される3年間にわたる補助金総額2，880万円強のプログラムです。

本年度は、①就職環境についての学内研修、②就職指導の専門研修、③人材育成企業データベース作成、④人材育成地域研究会(他大学との連携・日中韓国際比較研究を含む)、⑤人材育成シンポジウム、を実施していきます。

この取組の目的は、全教職員の就職指導意識の成熟を図り、地域産業の将来を自覚した人材育成の観点を獲得して、学生ひとりひとりの就職活動を支援することにあります。

この企画の発端は、本年3月、富士常葉大学の文載皓博士が韓日産業技術協力財団の人材育成調査に協力して浜松大学の総合研究所に共同研究を提起されたことにあります。4月に行われた、冷間圧造技術で「元気なモノづくり中小企業300社」に選ばれた浜松市北区の西尾精密株式会社の調査には、文博士とともに財団の金度勲理事、浜松大学総合研究所からは山田顕二准教授(浜松テクノポリス推進機構理事兼任)・白春驪博士・中西が参加しました。期せずして産官学・日中韓国際連携・学園内連携が成立していたわけです。この経験が出発点となって本企画が生まれました。日常の取り組みと人のつながりの重要性をあらためて痛感します。

9月以降、事業の実施に取り組んでいますが、全学の協力を得ることが何よりも重要でした。さいわい10月には全7学科代表からなるサポートチームも結成され、先進的で堅実な運営が始まっています。

●題字／学校法人常葉学園学園長 木宮和彦

常葉大　09 海外教育観察実習

10月11日～19日の9日間、海外教育観察実習で33名の学生がチェコ、ドイツ、イタリアの3か国を訪問しました。プラハ、ミュンヘン、ローマの日本人学校、現地の幼稚園、小・中・高等学校の授業を参観し、先生方のお話を伺ったり、児童生徒と交流をしたりしました。

ドイツのギムナジウム学校やシュタイナー学校では、高い理想のもとに教育を続けている歴史と伝統の重さを実感するなど、それぞれの国の教育の特色を肌で感じることができました。

教師を志す学生にとって、教育に対する視野を広げる有意義な9日間となりました。

橘小　読書の秋・素敵な本との出合い
―なかよし読書＆校内読書郵便―

本校では、読書月間にあわせ、「なかよし読書」「読書郵便」活動をおこなっています。なかよし読書とは、相棒さん同士（上学年と下学年のペアー）が、相手の子におすすめの本を読み聞かせする活動です。どの教室も、相棒さんの読み聞かせにじっと耳を傾け、真剣に聴きいる姿が見られました。

たのしいイラストやあらすじ、感想などを葉書にかいて相棒さんに教えてあげる活動が読書郵便です。各教室には郵便受けが置かれ、図書委員さんたちが葉書を届けて回ります。

これらの活動を通し、本に親しむ機会、本に対する興味や関心を、より深める場の一つとしています。

常葉中・高　私学作品展

10月5日～11日の7日間、静岡市民ギャラリーで第52回静岡県私学生徒作品展が開催されました。本校の芸術教育の内容を広く公開するものとして、書道と美術部門において、中学と高校を合わせて選抜された80点余りの作品を出品しました。会場には保護者の方をはじめ多くの方が訪れ、生徒の力作に見入っていました。

常葉大　韓国済州大学校での海外日本語教育実習を終えて

外国語学部グローバルコミュニケーション学科日本語教育専攻では10月25日から2週間、提携大学である韓国済州大学校で海外日本語教育実習を行いました。実習は本学日本語教育専攻の3・4年生8名の実習生が、済州大日文科18名の学生を対象に行うものです。対象は中級以上の学生ですから「済州島を日本語でガイドしよう」を目標にしました。コースデザインから教材開発、そして毎日2時間の授業。まとめとして済州大の学生がガイドになって行う島内バスツアーを実施しました。実習は大学関係者からも受講生の学生からも好評でした。このように実り多い実習ができたのは、済州大学校の関係者の方々のご厚意とご配慮のおかげと感謝しています。

菊川中・高　美術館特別企画展

菊川市出身の漫画家小山ゆう氏の原画156点と、蘭字・志戸呂焼といったお茶に関する作品26点を展示しました。小山氏の『おれは直角』をはじめとする作品が、これだけ勢揃いして一堂に展示されたことは過去になく、また、『チェンジ』では、菊川高校なども描かれており非常に興味深い展覧会でした。

常葉中・高　環境を考えるポスター展　佳作

第24回国民文化祭・しずおか2009のデザイン・グラフィックアート部門において、3年生の松永早貴さんの作品「気づけない心」が佳作に入賞しました。全国から233点もの応募があり、一般から大学生や専門学校生に混じっての快挙でした。「環境」というテーマのもと、松永さんは高校生らしい視点で、構成力の大変しっかりした作品を描き、そういった点が評価に結びついたものと思われます。

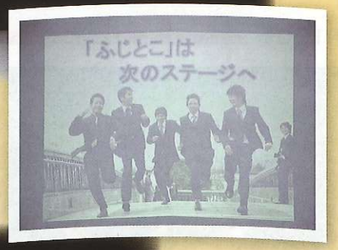
橘中・高　「目指せごみゼロ」ポスター・コンテストで最優秀賞
「人権啓発」ポスター・コンテストで優秀賞

左服部 華さん　右乾 佳織さん

10月24日(土)ツインメッセ静岡北館の「第7回しずおか環境・森林フェア」の会場で、本校2年乾佳織さんが「目指せごみゼロ」ポスター部門の高等学校の部で最優秀賞を授与されました。「静岡をもっともっときれいな都市にしたい」と彼女は語っていました。又、静岡人権擁護委員協議会主催の「平成21年度人権啓発ポスターコンテスト」に高校2年の服部華さんが「守りたい子供の権利とその笑顔」という題で出品し、優秀賞を授与されました。

富士常葉大　高大連携調印式

地域とともに教育の活性化を図ろうと、本学と市内の公立・私立の6高校が9月30日、教育活動などで連携する「高大連携協定」を結びました。協定をきっかけにさらに交流を深め、地域貢献に努めるために、今後は富士宮や沼津地区の高校とも教育連携を進めていく予定です。



富士常葉大学 創立10周年記念式典

平成21年9月30日(水)、富士市文化会館・ロゼシアター中ホールにおいて、来賓や大学関係者などおよそ500名が出席し、富士常葉大学創立10周年記念式典が盛大に挙行されました。式典では、はじめに木宮健二理事長・学長が「従来にも増して教育研究に努めるとともに地域社会へ貢献し、存在感のある有為な人材を輩出したい」と式辞を述べました。その後来賓代表による祝辞、在学生代表の謝辞の後、出席者全員で学園歌を斉唱して式典を終えました。引き続き同大教員による新設学部「社会環境学部」の紹介、学生による「富士大学10年の歩み」のスライド上映が行われ、過去―現在―未来の富士常葉大学の姿を様々に映し出しました。記念講演では富士市出身で金沢工業大学の石川健一学長が「創造の感動と実践～学生諸君の目指すべきもの～」をテーマに含蓄のある講演を行いました。行事の締めくくりとして記念祝賀会が行われ、会場では過去の思い出に花を咲かせたり、将来の希望に夢をはせたり、親しく語り合う参加者の姿が随所に見受けられました。

楽しく・アクティブに英語を学ぶ
ー本校の特色ある授業ー

橘小

本校では、英語のコミュニケーション能力の育成とともに、「自分の力で(英語を)読む」力の育成を目指し、フォニックスやオックスフォードのリーディング教材等を使って、ネイティブの先生から学ぶだけでなく、ペアやグループでも助け合いながら練習に取り組んでいます。また、4月の「自己紹介」に始まり、「世界の国々」「月・曜日」「買い物」など、月ごとのテーマに基づいた学習も、楽しく行っています。こうした学習は1年から段階に応じて進められます。

こうして積み上げられた学習の成果は、6年間の集大成としてブリティッシュヒルズ英語研修(国内留学体験)へとつながっていきます。早くも1年生が行きたいと、意欲満々、英語の学習に取り組んでいます。

「瀬名っ子しぜん探検隊」

常葉短大

10月17日(土)～18日(日)に、公開講座「瀬名っ子しぜん探検隊」最後の企画である「ふりかえりキャンプ」を行いました。短大の中庭にテントを張って宿泊し、午前3時半に起床。4時半に短大を出発し、夜明け前の梶原山に登頂。山頂で待つこと十数分、雲の間から顔をのぞかせた朝陽に大歓声。キャンパーたちの顔も輝いていました。この「瀬名っ子自然探検隊」では、5月から10月の間に計4回のキャンプを実施し、保育科「子どもと自然」ゼミ参加者を中心とした学生が指導にあたりました。子どもたちはもちろん、学生自身の体験の幅もひろがり、身近な自然の中でよい時間を過ごせたと思います。

之山忌清掃活動

静岡リハ専

「みかん狩り」

とこは幼

たちばな幼

あまくておいしいね

「ハロウィンパーティー(年中)」

「お菓子をくれなきゃいたずらしちゃうぞ」

― 富士を愛し、富士を守る！ ―

がんばる卒業生

富士常葉大

富士市中央消防署
吉永分署　消防副士長
左原　恭平さん
環境防災学部卒業

青空とのコントラストが美しい、富士山の初冠雪から数日後の10月の午後、久しぶりに母校の富士常葉大学のエントランスから富士山を仰ぎました。在学中と変わらない雄大さとパワーを感じます。そして、暖かく迎えてくださる教職員の皆様に感謝申し上げます。

私は4期の卒業生です。富士市で消防士をしています。今年で4年目を迎えました。富士市で生まれ、育ちました。消防士であった祖父の影響や、「人を助ける仕事」をしたいという幼い頃からの希望で消防士を目指しました。

大学時代は野球部に所属し、掛け替えのない多数の友人を得ました。大学から7キロ離れた丸火グランドに毎日通い、日が暮れて真っ暗になるまで練習したことを覚えています。また、3年生の時には新潟県中越地震のボランティアに参加しました。惨状を目の当たりにしショックを受けましたが、熱意と努力が溢れる現地の消防の方々の活動に感動し、このことにより自分も社会貢献したい気持ちが一層固まりました。

消防士の仕事は日頃の筋力トレーニングや冷静な判断訓練がなければ成立しません。また、災害現場に駆けつける業務ばかりではなく、災害の発生を未然に防ぎ、被害を最小限に抑える「予防業務」もあります。そのために消防法等の規定に適合しているかの審査や検査に必要な幅広い知識を身につけなければなりませんし、資格取得で知識を磨いていく事も大切です。

人口約26万人のわが故郷、「富士」。この街の安全、市民の生命と財産を守る強い意志を持って引き続き任務に就きたいと思っています。秋の火災予防運動も始まります。皆さん、くれぐれも「火の用心」をお願いします。

模擬試験開始

静岡リハ専

4年生は長期にわたる臨床実習を終了しました。今年度の理学療法士・作業療法士国家試験は平成22年2月28日(日)に行われます。学生たちはこれから10回の模擬試験を繰り返しながら、知識の整理をしていきます。ゴールは間近です。全員が揃って理学療法士の資格を取得することができるよう、頑張りましょう。

「アロマハンドリラックス練習中です。」

医療専

鍼灸学科では、将来の臨床現場で役立つ技術を修得するために、アロマオイルを用いたトリートメントを学んでいます。2月の試験に向けてアロマハンドリラックスの手技を練習中です。

浜大生が"チャレンジショップ"に出店

浜松大

10月3日、浜松市中心街で例年開催されている「はままつ収穫祭」のイベント、"チャレンジショップ"に、ビジネスデザイン学部の学生7名が地元産品の紹介セールスで参加しました。この日販売したのは「味わいプロジェクト」と称した【春野どらやき・横須賀ドーナツ・のりレーヌ・のりラスク】など地産地消の商品。「こんにちは 浜松大学です」と大きな声で商品のＰＲをした浜松大学は、審査の結果、「スマイル賞」を受賞しました。

浜松大生、浜名湖立体花博でエコを啓蒙

10月9日、浜松モザイカルチャー世界博のイベントステージでビジネスデザイン学部中津川ゼミ生4名は「Private Earth～地球、大事にしてる？」をテーマに、土に戻る素材の風船を使ったバルーンアートを通して、環境や人間同士のつながりの大切さを訴えました。観客自身がハート型の風船を作る体験コーナーでは、学生達がおもてなしの心(ホスピタリティ)を実践し、観客ひとりひとりに笑顔で声をかけながら、バルーン作りを手伝っていました。

庄司隼人君、広島カープへ！ドラフト会議4位指名

橘高

10月29日(木)5時40分、長いドラフト会議の結果を待って職員室のインターネット前に座っていた庄司君や多くの教師たちの目が輝いた。やがて歓声に変わる。「広島カープだ」。会議室での黒澤監督・伊東部長を交えた記者会見の後、野球部の後輩たちに胴上げされた。非常に嬉しそうだった。「厳しい練習の中で思い切ってできることが本当に嬉しい」彼の好きな言葉「何苦楚魂」で駿河の隼(はやぶさ)が先ず日本で大きくはばたくことを期待します。

アルティメットチーム全国大会で一勝！

富士常葉大

本学アルティメットチーム「ＩＮＤＥＩＳ」が、全国大会出場３度目にして初勝利をあげました。大会は予選を突破した14チームが２日間のトーナメントで戦うもので、本学は今年の学生チャンピオン日体大を僅差で破り、念願の全国大会での勝利となった。

体育祭

常葉中・高

常葉祭三大行事のラストを飾った体育祭。ここ数年草薙体育館を借りて中高全体で行っています。天候に左右されることもなく、また補助生徒達が役割に徹することでスムーズに進行していきます。その中でも反省点を見つけ、工夫し、より良い体育祭を目指したいです。

浜名湖立体花博へGO！中等部秋の遠足

橘中

10月14日(水)前週の予定が台風のため延期となっていた「秋の遠足」が実施されました。バス4台に分乗して8時前に出発。約2時間で「世界立体花博」の会場である浜松フラワーパークに到着しました。生徒達はモザイカルチャー(金属の骨組みに土を詰め、花・緑を色合いや特性を生かして植えつけて、絵画や彫刻のように平面的、立体的に形作るアート作品のこと)やイベント、飲食物販施設、サービス施設などを巡りながら大いに友情の輪を広げていました。